

チャレンジ!

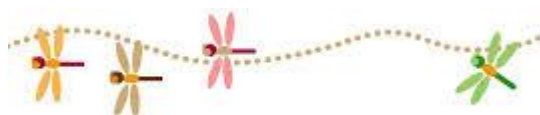
平成28年度
研究通信
研究部
H28.9.14 発行

第2回全校授業研究会

～中学部 生活単元学習～

8月30日（火）特別支援教育課指導主事 中村素子先生を助言者に、中学部の全校授業研究会を行いました。グループ協議では、「人的環境の整備」「物的環境の整備」「学習活動」の各視点で協議をしました。授業の改善点や次単元へのアイデアなどについて各グループで活発な意見が出されました。ここで出された課題や改善点を日々の授業の中でも意識して指導を行っていきましょう。

グループ協議から～改善点～



物的環境の整備

【板書・掲示物 等】

- ・情報を精選して掲示するようにする。
- ・各グループの板書やワークシートの形式を統一する。

【関わりを共有するための支援】

- ・良い関わり合いの写真を撮ったり、言葉をメモしたりして、生徒が共有できるようにする。

【生徒が主体的に活動できる教材・教具】

- ・写真カードは教師の指示として使用するのではなく、生徒自身で活用できるものにする。
→ 今後はコミュニケーションツールとして習熟させたい。
- ・個々の生徒の教材・教具の精選。使い方を明確にする。
→ ねらいを絞ることにつながる。

人的環境の整備

【めあてについて】

- ・生徒の目指す姿を指導者間でもっと共通理解する。
- ・前時の課題とリンクしためあての設定。

【見通しの持たせ方】

- ・導入の段階で一度劇を演じてみることで、生徒自身で必要な物やせりふ等への見通しをもつことができる。
→ 動作化することで、生徒が考えたり、意見を伝え合ったりするきっかけになる。
- ・単元計画の工夫。

【校内資源の活用】

- ・高等部のミュージカル担当職員や高等部生からアドバイスをもらったり、小学部で上映会を行ったりする。

【TTの連携・役割】

- ・グループごとの活動も、TTみんなで話し合い、ベースを作る。
- ・生徒同士をつなぐような言葉掛けや支援をする。
- ・教材を活用し、支援の精選と工夫をする。

学習活動

【活動量、時間配分】

- 導入やチームミーティングの内容を精選し活動量を確保する。
- めあてに関するキーワードを初めから掲示しておく。

【めあてと評価】

- 達成感や成就感をもたせるための評価。
→作ったものを着てみる、使ってみるなど
- チームファイルやタブレット端末等を用いて、学習の積み重ねや評価を残していく。

中学部における地域と関わる学習活動とは？（次単元へのつながりを含めて）

- 保育園や老人ホーム等に訪問して劇を披露し、その中で相手のニーズに合わせた物語を選ぶ。様々な場で発表することで、より相手を意識できるようになり、自己肯定感が高まる。（認められる場）
- 生徒がイメージしやすい対象から始める。



指導助言 特別支援教育課指導主事 中村素子先生

研究全体について

- 能代支援学校では、他校からも参考とされる研究している。教育目標と日々の授業のつながりを視覚化し、全校でつながりを確認しながら、授業づくりをしている。今後も、情報発信をしてほしい。
- 次期学習指導要領の改善のポイントとなる、カリキュラムマネジメントに職員一丸となって取り組んでいる。

授業について

- 積み重ねが見られ、友達をよく理解し、尊重しながら関わり合う姿が良かった。居心地の良い授業であったと思う。一人一人を認めるという、教師の姿勢を継続してほしい。一人一人の活躍場面をよく検討していた。

協議を受けて

物的環境：情報の整理を。今日の板書は、Tの思いがちりばめられていた。実際、生徒はどのように活用していたのか。生徒が使うことを前提に作ってほしい。

人的環境：ゴールへの意識の持たせ方「ももたろう」に向けて、一人一人がどのような目的意識をもっているか

学習活動の工夫：生徒に合った形で、一人一人評価することがすることが大切。評価のためには、自分を振り返る必要がある。視覚的な手立てや、良い発言を教師がメモしておくなど工夫を。

先生方全体へ

- 「ねらい」、「評価」について。単元目標は、最終的な目指す姿。指導計画の目標が、内容説明になっていないか。最終的な目指す姿に向けて、ステップアップさせると良い。
- 「話し合い」とても難しいことである。友達の話の聞いたり、自分が話したりできる必要がある。現時点では、どんな表現、話し合いの姿を求めるのかをスッキリさせると良い。

